



スリランカ

# データヘルスを用いた健康経営手法の導入

健康経営とは：従業員等の健康管理を経営的な視点で捉え、健康データの収集・分析などを戦略的に実践することで、生産性と企業価値を向上させること。

## 社会課題

- 同国は、経済発展と基礎医療の普及により感染症が大幅に減った一方で、非感染症疾患（いわゆる生活習慣病）による死亡率が7割に上る。
- 国公立病院の医療費が無料であることなどから、国民全般の病気に対する予防意識が低く、医療費の財政負担も年々増している。
- 近年は、中所得国として、製造業だけでなくサービス業においても高い生産性が求められており、企業による「健康な職場づくり」は産業の国際競争力維持のために欠かせない条件となりつつある。

## 事業機会

- 同国政府は、「非感染症疾患の予防と管理に関する国家アクション・プラン2016-20」を発表し、2025年までの疾病削減・健康増進に関する達成目標を掲げている。
- 所得増による可処分所得向上は、国民の付加価値消費を拡大させており、特にヘルスケア分野においても高い成長が見込まれる。
- 親日的な同国では、5Sやカイゼンなど日本型経営の導入が盛んに行われており、PDCAを基盤とした健康経営手法の普及余地は大きい。

事業期間	2016年11月～2019年3月
参加企業	日立、オムロン、花王、プラクテックス、他
パートナー	COYLE(若手経営者協会)、JASTECA(日本スリランカ技術文化協会)、IPS(政策研究所)、他
最終目的	1. 就業者の非感染症疾患(NCDs)の抑制 2. スリランカ産業の国際競争力向上
事業目的	1. スリランカ企業による日本式健康経営手法の導入 2. 質の高い健康関連市場の創出 3. 日本製医療機器、ヘルスケア・サービスの普及
手段	1. 健康経営手法の普及・啓蒙 2. 民間主導による健康経営(PDCA活動)の実証 3. 健康経営アワードの創設 4. スリランカ政府への提言
ツール	□実態調査 □専門家派遣 □ワークショップ開催 □展示会出展 □パートナー招へい □実証実施 □研究会開催 □政策提言

## Action Plan:

実態調査  
戦略策定

パートナー選定  
普及・啓蒙

実証実施  
招へい・研修

データ分析  
提言委員会設置

アワード創設  
政策提言

### 健康経営(データヘルス)の普及・啓蒙

セミナー開催、見本市への出展、メディアを使った広報などを通じて、健康経営に関する認知を高めると共に、企業経営者に対しては、従業員の健康管理データを収集・分析することで、生産性向上、価値向上などに繋げる経営手法を紹介。



### 健康経営アワードの創設

健康経営に対する社会的認知向上と定着を図るため、現地パートナー主催の健康経営アワードを創設する。日本が主導して作られた健康経営の国際規格(PAS3002)をベースに、日本の健康経営銘柄などを参考として、スリランカ独自の選定基準を策定。



### 政策提言

提言策定委員会を設置し、企業による健康増進を促す国の施策を提言する。

具体的には

- ・健康診断制度の導入など健康経営の普及
- ・関税の引き下げ
- ・健康関連投資への財政・非財政インセティブ付与
- ・健康な職場づくりに関する情報開示促進などを想定

Policy  
Brief